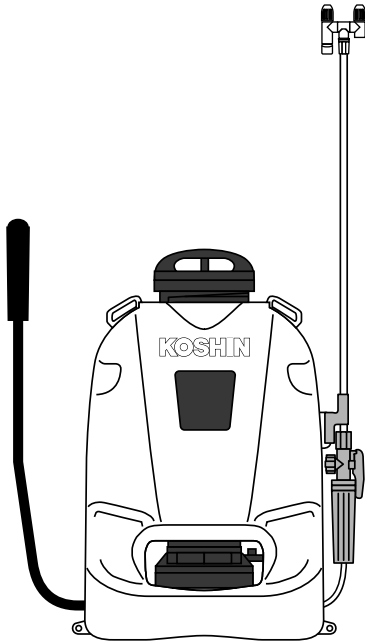


KOSHIN



手動噴霧器 (背負式)

RW-7 / 10 / 15

取扱説明書(保証書付)

目 次

ドリフト(飛散)対策のご案内…	2
安全上の注意……………	4
各部の名称と仕様……………	7
ご使用になる前に……………	8
使用方法……………	13
使用後の注意……………	16
保守・点検……………	17
故障と処置……………	18
パーツのご注文は……………	19
保証書……………	19
お問い合わせ……………	20

- このたびは、当社製品をお買い上げ頂き誠に有難うございます。
- この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。ご使用になる前に必ず本書をお読みになり、使用方法をご理解ください。(誤った使用法は、事故・ケガの原因となります。)
- 取扱説明書は、何時でも見られるように大切に保管ください。

※保証書を大切に保管ください

株式会社 **工進**

22-11 045380503

もっと安全・安心に

(飛散)

ドリフトの少ない農薬散布を!

食品衛生法が改正され、農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されました。今まで残留農薬基準値が決められていなかった農薬に、0.01 ppmという一律の厳しい基準が設けられ、この定められた基準を超えて農薬が残留する食品は、出荷停止・販売禁止・回収等の対応が求められるようになりました。

農薬の適正使用はもちろんのこと、散布する薬剤が周りの圃場にドリフト(飛散)しないよう、これまで以上に気をつける必要があるとともに、地域一体となった取り組みが大切となります。

ポジティブリスト制度とは

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則として禁止する制度です。一定量とは「人の健康を損なう恐れのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01 ppmとなっています。(いわゆる一律基準)
平成18年5月29日より施行

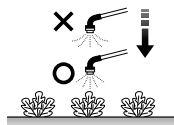
※詳しくは厚生労働省のHP等をご参照ください。

散布しようとする作物以外に農薬がドリフト(飛散)しないよう 散布時には細心の注意をはらいましょう。



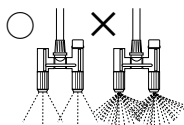
風の弱い時に風向きに注意して散布しましょう。

農薬ドリフトの最大要因は風です。風のない日や風の弱い時に散布しましょう。散布中は常に風の状況を把握して注意することが必要です。



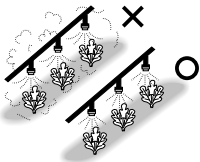
方向や位置に注意して散布しましょう。

出来るだけ作物の近くから作物だけに散布するよう心掛けます。特に圃場の端部では外側から内側に向けて散布する等、特に注意が必要です。



適正なノズル・圧力で散布しましょう。

細かい散布粒子のノズルを使用するほど、また 散布圧力を高めるほどドリフトしやすくなります。必要以上の圧力で散布しないよう注意が必要です。又、ドリフトの少ないノズルに取り替えることも効果的です。



適正な量を散布しましょう。

必要最小限の量と区域で散布を行い、無駄な散布をしないように心掛けます。
散布量が多くなるとドリフトする割合も大きくなります。



薬剤タンクやホースは洗い残しがないよう十分に洗浄を行い、洗浄水は適切に処分しましょう。

薬剤タンクやホースに使用した農薬が残っていると、次の散布時に作物に薬害が生じたり、収穫物に農薬が残留してしまう等、思わぬ事態に繋がる恐れがあります。

地域一体となった取り組みが大切です。



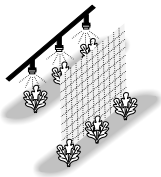
周りの作物にも登録のある農薬を使用しましょう。

より多くの作物に適用があり、収穫近くまで使える様な農薬を選定する事で、飛散した場合のリスクを低減する事が出来ます。



決められた農薬の使用法を守りましょう。

使用前には農薬の使用法を確認し、散布出来る作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数を必ず守って使いましょう。また、圃場ごとに使用した農薬や作業内容を必ず記録しておきましょう。



境界区域では農薬散布を控え、周りの作物をネットやシートなどで遮断したり一時的に覆いましょう。

周りの圃場で収穫直前の作物がある場合は、散布日や収穫日を変更する等の調整をしましょう。

次の場合は
特に注意が必要です。

- ◇圃場同士の距離が近い時
- ◇隣の食物作物の収穫が近づいてきた時
- ◇飛散が起こりやすい散布方法・条件の時


**農薬散布することを周りの生産者に伝え、
日頃からコミュニケーションをとるなど、
地域の農業従事者同士の連絡を密にしておくことが重要です。**


※イラストはイメージです


安全上の注意


※ご使用前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上正しくお使いください。
ここに示した注意事項は製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は次のように区分しています。
■表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危険や損害の程度を次の表示で「警告」「注意」に区分し、説明しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 **警告** 人が死亡または、重傷などを負う可能性が想定される内容です。

 **注意** 人が損傷を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容です。

 この記号はしてはいけない「**禁止**」の内容です。

 この記号は必ず守っていただく「**実行**」の内容です。

■その他の表示：お願い…正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。

保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。

警告



薬剤は誤使用・誤飲の危険がありますので、絶対に別の容器に移し替えないでください。
薬剤の空容器は、散布液調合時には必ずよく洗い、薬剤メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。



幼児・子供が触れないよう、隔離処理をして安全な場所で使用・保管してください。
ケガの原因となります。



本体取扱説明書を理解していない人は、製品の操作を行わないでください。また、人に本機を貸す時は、取り扱い方法をよく説明し、使用前にこの取扱説明書をよく読むように指導してください。
借りた人が誤った本機の使い方をして、思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意



安全の為、作業中は保護マスク、保護メガネ、長袖・長ズボンの保護衣、作業帽、不浸過性の手袋、作業靴を着用してください。



炎天下で長時間作業しないでください。作業は、風の強い、朝夕の涼しい時間を選んでください。



飲酒時、過労ぎみ、病気や妊娠している時は、作業をしないでください。
このような時に作業を行うと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。



作業する前に、必要な点検を必ず行ってください。
ホースの接続部はしっかり締まっているか、ホースに破れや穴はないか、薬液タンクのキャップはしっかり締まっているか、等の点検を忘れないでください。点検をおこたると、薬液が漏れて思わぬ事故につながる恐れがあります。



動かなくなったり、異常がある場合は事故防止のため、直ちにご使用を中断して、本誌裏表紙に記載の「工進修理相談窓口」へご相談ください。
そのまま使用されますと、思わぬ事故につながる恐れがあります。



改造・分解は絶対にしないでください。
故障や異常動作を引き起こし、けがの原因となります。



薬剤は有害です。幼児や子供が触れないように保管してください。また、保管方法については薬剤の取扱説明書に従ってください。



薬剤を使用する時は本機の取扱説明書に記載されている主要薬剤適合一覧表を確認の上、使用してください。
強酸性・強アルカリ性の液体、ベンジン・ガソリン等の可燃性の液体、溶剤等は絶対に使用しないでください。爆発する恐れがあります。
ゴキブリ・ハエ・蚊等に用いる殺虫剤・防疫用薬品、下水・便所等に用いる消毒剤、畜産用薬品は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。



防除、除草用の農園芸用薬剤の散布・散水用途以外には使用しないでください。



安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。



調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、薬品の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。故障の原因になります。

⚠ 注意

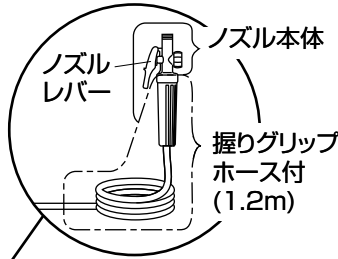
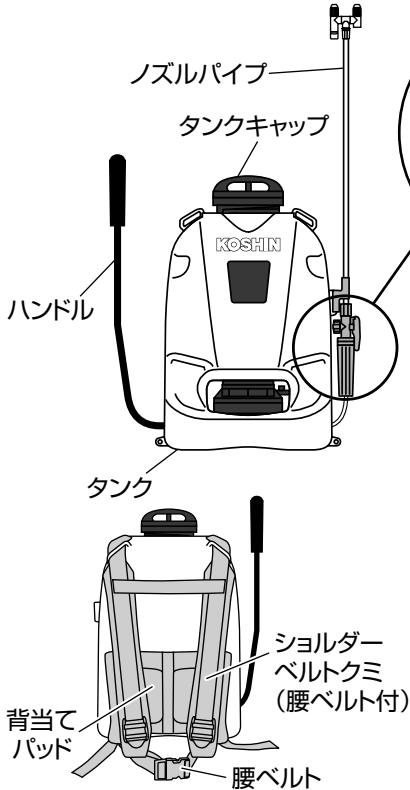
 必ず守る		<p>薬液を変える時は、必ず前の液を完全に抜いてから、新しい液を入れてください。薬剤が混ざると、化学変化をおこす恐れがあり危険です。</p>
 必ず守る		<p>使用する薬剤については、薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、正しく使用してください。</p>
 必ず守る		<p>薬剤が身体にかかった時、目や口に入った時等は、薬剤の取扱説明書に従い、適切な処置を行うか、医師の診断を受けてください。</p>
 必ず守る		<p>少しでも体調が悪くなった時はすぐに医師の診断を受けてください。</p>
 必ず守る		<p>薬剤が人体、家畜にかからない様に、また、川、池、沼などを汚染しない様に風向き周囲の状況を十分に確認のうえ、使用してください。</p>
 必ず守る	<p>散布器具や容器を洗浄した水、残った薬剤は河川や下水などに流さず、薬害のない方法で処理してください。</p>	
 禁止	<p>ノズルを絶対に人や動物に向けないでください。ケガの原因となります。</p>	
 必ず守る		<p>噴霧状態が悪化した場合など噴口部を清掃する場合は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ず圧力を抜いてから、噴口部を取り外して清掃してください。</p>
 必ず守る		<p>作業終了後は器具や着衣類を全てよく洗い、作業後も入浴するか、手、足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。</p>

〈ラベルのメンテナンス〉

製品には、注意ラベル等が貼付されています。これらが見えにくくなった場合や、はがれた場合にはお買い上げの販売店に注文し、貼りかえてください。

各部の名称と仕様

開梱すると本体と次の様な部品が入っています。
全て揃っているか確認してください。



取扱説明書



噴口・ノズル	機種	RW-7	RW-10	RW-15
自在二頭口噴口 (一頭口切替)		○	○	○
泡状除草噴口		○		
カバー付 泡状除草噴口			○	○
ノズルパイプ(50cm) ノズルスタンド		○		
ノズルパイプ(60cm) ノズルスタンド			○	○

主な仕様

機種名	RW-7	RW-10	RW-15
名称	手動噴霧器(背負式)		
薬液タンク容量	7 L	10 L	15 L
寸法(幅×奥行×高さ)	440 × 201 × 540 mm	440 × 201 × 540 mm	447 × 247 × 540 mm
製品重量	3.2 kg	3.3 kg	3.7 kg
ポンプ形式	ダイヤフラムポンプ		
接続ネジ	噴口接続部 : G1/4、ノズルパイプ接続部 : M16		

性能(全機種共通)

最高圧力(締め切り)		0.4 MPa(4 kgf/cm ²)		
吐出量	噴口	自在二頭口噴口		(カバー付) 泡状除草噴口
	常用圧力			
	0.3 MPa(3 kgf/cm ²)時	霧 約 0.9 L/分	直射 約 1.3 L/分	約 0.6 L/分
0.15 MPa(1.5 kgf/cm ²)時	霧 約 0.68 L/分	直射 約 0.86 L/分	約 0.35 L/分	

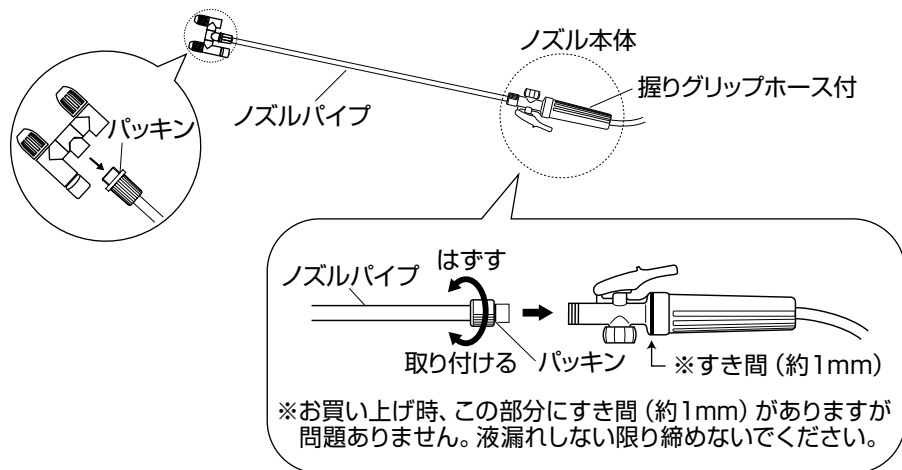
ご使用になる前に

① 確認事項

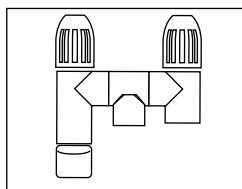
同梱されている部品が全て揃っているか確認してください。
(P.7 各部の名称と仕様(標準付属品)参照)
タンク内、及びポンプ内に少量の水が残っている場合がありますが、
これは検査時のものであり使用上に問題ありませんのでご了承ください。

② 組み立て

1. 握りグリップにノズルパイプを取り付けます。ノズルパイプ端面にパッキンが付いていることを確認してください。



2. ノズルパイプの先端に、2種類の噴口から必要なものを選んで取付けます。

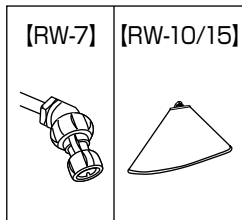


霧状・直射散布

自在二頭口噴口(一頭口切替)

※コックをとじると二頭口 → 一頭口へ切替できます。

- 通常噴霧散布用または、直射散布
- 薬剤を噴霧状態で均一に散布できます。
- 直射状態では部分的に遠方まで散布できます。



泡状散布

[RW-7]泡状除草噴口

[RW-10/15]カバー付泡状除草噴口

- 少量・通常散布用
- 葉・茎から吸収させ、植物全体を枯らす茎葉吸収移行型の除草剤に使用します。
- 風の影響を受けにくく、薬剤の飛散を防止できます。

⚠ 注意 各接続部にはパッキンが付いています。必ずパッキンがあることを確認してください。
また、液漏れがないようにしっかりと締め付けてください。

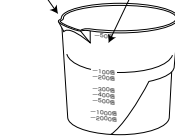
⚠ 注意 吐出ホースに亀裂、破損がないことを確認してください。

③ 薬液について

1. 薬剤を希釈する

- タンクキャップを外し、ストレーナーの中に収納されている計量カップを取り出してください。
- 計量カップにはタンク満水状態での希釈倍率が表示されています。
目的の希釈倍率まで薬剤を入れて希釈してください。
- 少量の薬液を作る時は、薬剤量用の目盛りと下記の希釈倍率早見表をご利用ください。

薬剤量用の目盛り タンク満水状態での希釈倍率用の目盛り



〈イラストは10L用〉

※計量カップはタンク容量によって異なります。

〈希釈倍率早見表〉

水 \ 倍率	希釈倍率 (cc = g = mL)							
	50倍	100倍	200倍	300倍	400倍	500倍	1000倍	2000倍
2L	40cc	20cc	10cc	7cc	5cc	4cc	2cc	1cc
5L	100cc	50cc	25cc	17cc	12.5cc	10cc	5cc	2.5cc
7L	140cc	70cc	35cc	23cc	17.5cc	14cc	7cc	3.5cc
10L	200cc	100cc	50cc	33cc	25cc	20cc	10cc	5cc
12L	240cc	120cc	60cc	40cc	30cc	24cc	12cc	6cc
15L	300cc	150cc	75cc	50cc	37.5cc	30cc	15cc	7.5cc

お願い 薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、記載されている倍率に従い、薬剤を正しく希釈してください。

ご使用になる前に

2. 主要薬品適合一覧表

乳剤(薬剤を水で薄めて使用)	水和剤(粉末の薬を水で溶かして使用)
●殺虫剤 スミチオン乳剤 マラソン乳剤 ディブテックス(DEP)乳剤 マシン油乳剤 ダイアジノン乳剤 DMTP乳剤 PAP乳剤 ●殺菌剤 ポリオキシン乳剤 マイシン乳剤 サブロール乳剤 石灰硫黄合剤 ●除草剤 クサノンA乳液 ラウンドアップ バスタ	●殺虫剤 オルトラン水和剤 ロプラール水和剤 モレスタン水和剤 DMTP水和剤 ●殺菌剤 ベンレート水和剤 ダイセン水和剤 ダコニール(TPN)水和剤 ●除草剤 クサノンS水和剤 シマジン水和剤 2,4-D

ゴーパーサントレファノサイドをご使用の場合



警告

ゴーパーサントレファノサイド等一部の薬剤は使用方法を誤りますと、故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。正しい使用方法を必ず守ってください。

- ① 薬剤は薬剤メーカー指定の希釈倍率の範囲内で必ずご使用ください。
- ② 使用後は速やかに水洗いをしてください。(薬液をタンクの中に入れてそのまま放置しないでください。)水洗いはタンクの中に清水を十分に入れ、噴霧をさせ、ホース・ポンプも十分水を通して、完全に洗浄するようにしてください。水洗いは2～3回繰り返して実施してください。



注意

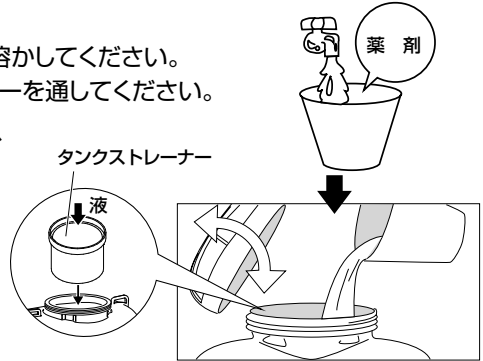
一部の薬剤は正しい使用方法を守った場合でもタンク等を変色、変形させることがあります。機能が問題ありません。(万が一、少しでも異常を感じられた場合は、速やかに使用を中止し、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。)

【殺虫剤豆知識】

- 接触剤** —— 薬を害虫に触れさせて殺します。市販薬剤の多くがこのタイプで食毒剤やガス剤の作用を合わせ持つものがあり、残効性が少なく害虫の発生度に丁寧に散布します。
- 浸透移行性剤** 葉や根から吸収された薬の成分を害虫が摂取する事により殺します。薬の効果が20～30日間も続くために接触剤より散布回数が少なくてすみます。
- 誘殺剤** —— 害虫を誘引し、薬を食べさせて殺します。害虫の種類によりいろいろな薬剤があります。
- 展着剤(ダイン等)** 薬剤を害虫や植物によく付着させ、風雨等で流失するのを防いで薬の効果を長持ちさせます。散布液をつくる時に必ず使いましょう。

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
タンクに入れる時は必ず付属のストレーナーを通してください。

石灰硫黄合剤及び水和剤を使用した場合、
噴口やストレーナーに薬剤がつまり、
霧の状態が悪くなることがあります。
薬剤はよく溶かしてからご使用ください。



<p>⚠ 注意</p>	<p>薬剤は有害ですから、取り扱いについては必ず薬剤メーカーの指導に従って充分注意を払ってください。体に付着したときはよく洗い流してください。</p>
<p>⚠ 注意</p>	<p>水和剤、石灰硫黄合剤をご使用の際はバケツ等の容器でよく溶かしてご使用ください。また、ご使用中に薬液が沈殿しないように良く攪拌してください。</p>

4. 薬の使い方

●同じまくなら早目散布

病害虫の発生初期に薬まきを。病状が進んだ後では、同じ薬まきでも大変な手間がかかります。

●説明書をよく読み、かけ過ぎに注意

散布量は葉先から薬液がしたたり落ちる直前ぐらいが効果的。散布液をつくる時は、説明書の希釈倍率を守って正しく作りましょう。

●風のない朝夕の涼しいときに散布

日中や西日の強い高湿時はさけ、薬液の流失を防ぐためにも、半日は雨の降らない日を選んでまきましましょう。

●薬の上手なうすめ方

はじめ少量の水でよくかき混ぜてから残りの水を加えるとよく混ざります。また、展着剤(10ページ 殺虫剤豆知識参照)を使いましょう。

●ムラなく葉の裏側へも

葉の裏側は病害虫の隠れ場所。幹、枝、莖にも発生しますので植物全体にむらなく薬をかけましょう。

●残った液はキキメなし

一度溶かした薬を後日使っても効果はありません。下水等に捨てずに植物にかけるか土に捨ててください。

ご使用になる前に

5. 作業上の注意

●作業は防除用の服装で!

安全のため、農薬の付着や吸入を防ぐため、保護マスク、長袖・長ズボンの保護衣、頭から肩まで覆う事の出来る防水頭巾、ゴム手袋、ゴム長靴、ゴム前掛けを用意し、危険のない服装で作業してください。

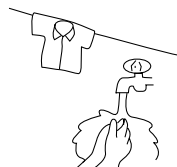


●体調のよい時だけ作業を!

少しでも体調が悪くなった時は、すぐに医師の診断を受けてください。

●周囲の安全を確認!

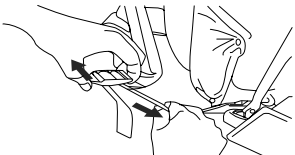
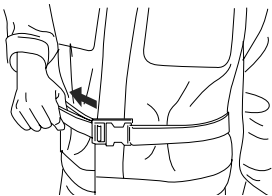
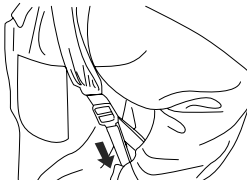

風向きや周囲の安全を確認して作業をしてください。
川・池・沼等汚染しないよう、また、人・家畜に害のないようにし、作業者の体にもぜったい薬がかからぬようにしてください。



●すべて、よく洗う!

作業が終わりましたら器具や着衣類をすべてよく洗い、作業者もただちに入浴するか、または手・足・顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。

④ ショルダーベルトの調節

 <p>①背負う前に、図のようにショルダーベルトのバックルを上を持ち上げ下のベルトを引くと、ベルトが長くなり背負い易くなります。</p>	 <p>②タンクを背負ってから腰ベルトを装着し、長さを調節します。</p>
 <p>③ショルダーベルトの端を後ななめ方向に引くと、製品を背負ったままベルトを短くできます。</p>	 <p>④ショルダーベルトを長くする時は、バックルを持ち上げれば自然にベルトが伸びます。</p>



注意

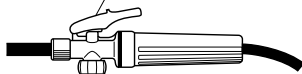
急激な操作は避けてください。急にベルトが長くなり危険です。

使用方法

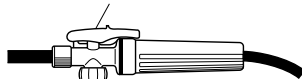
① 薬液を入れる

1. ノズルレバーが「切」になっていることを確認します。

ノズルレバーが「切」の状態



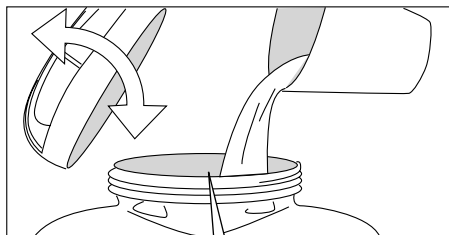
ノズルレバーが「連続」の状態



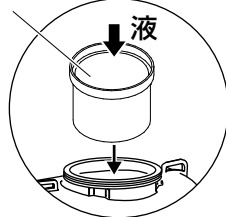
注意

ノズルレバーを押し込んだ状態または「連続」の状態、タンクに薬液を入れると薬液が流れ出て来てしまいます。

2. タンクキャップをゆるめて、はずします。
3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
 - 薬剤タンクに目一杯入れますと、傾いた時にこぼれることがありますのでご注意ください。
 - タンクに入れる時は必ず付属のタンクストレーナーを通してください。
 - 薬剤の取扱いについて、詳しくは9～11ページをご確認ください。
4. 薬液を入れ終われば、タンクキャップをしっかりと締めてください。



タンク
ストレーナー

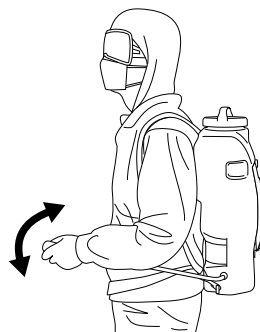
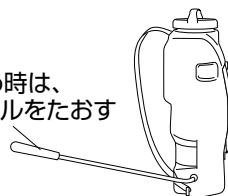


使用方法

② 加圧する

1. ハンドルを倒した状態で背負ってください。
2. ノズルレバーを開の状態(握った状態)にして、ハンドルを10回程度上下させます。
ノズルの先端から薬液が出ることを確認してください。
(空気を抜く為です。)
3. ノズルレバーを閉の状態(握っていない状態及びロックされていない状態)にして、ハンドルを10回程度上下して加圧してください。
4. ノズルレバーを開の状態(ノズルレバーを握った状態及びロックされた状態)にすると散布ができます。
5. 数秒すると噴霧が弱くなってきますので、ゆっくりとハンドルを動かして加圧しながら作業を続けてください。
 - 毎分20～30回ハンドル操作を続けると常用圧力約0.15MPa(1.5kgf/cm²)～約0.3MPa(3kgf/cm²)で噴霧されます。

背負う時は、
ハンドルをたおす



⚠ 注意

本機は安全弁により一定圧力(0.4MPa〔4kgf/cm²〕)以上は圧力が
かからないようになっています。無理な加圧は絶対にしないでください。

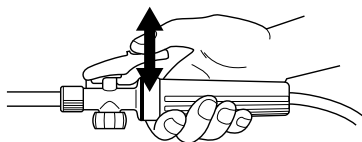
⚠ 注意

加圧した状態では長時間放置しないでください。

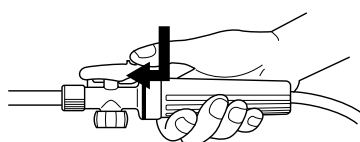
③ 噴霧させる

ノズルレバーの操作で連続噴霧・断続噴霧の調節ができます。

断続噴霧



連続噴霧



ノズルレバーを押してスライドさせます。

4 噴口の調節

- 噴霧の入切はノズルレバーの操作で行います。
- 噴霧の方向は、自由に調節できます。



注意

噴口の調整はネジになっていますので、あまり緩めすぎると、液漏れまたは脱落しますので注意してください。

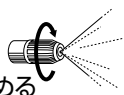
霧状・直射散布

自在二頭口噴口(一頭口切替)

<霧の調整方法> 先端を回すと噴霧と直射に切り替えられます。

<噴霧>

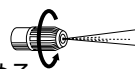
広範囲に散布する時



しめる

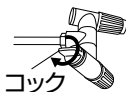
<直射>

遠くへ飛ばす時



ゆるめる

<一頭口への切り替え方法>



コック

コックを締めると一頭口として使用できます。

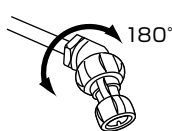


注意

液漏れの原因となりますので、コックを締め切った状態から1回転以上緩めないでください。

泡状散布

(カバー付)泡状除草噴口



180°

回転部



180°

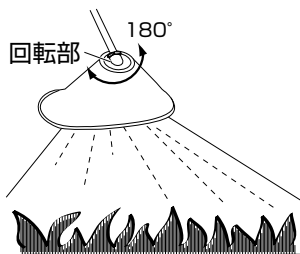
噴口が回転するので、角度を調整出来ます。左右180°の範囲で調整してください。

5 散布の仕方

- 除草噴口を回し噴霧面を回転出来ます。

ポイント

雨の降りそうな日避けて散布します。
薬剤を植物に長時間付着させることで除草効果が上がります。



回転部

180°



注意

噴霧中は噴口を回転させないでください。

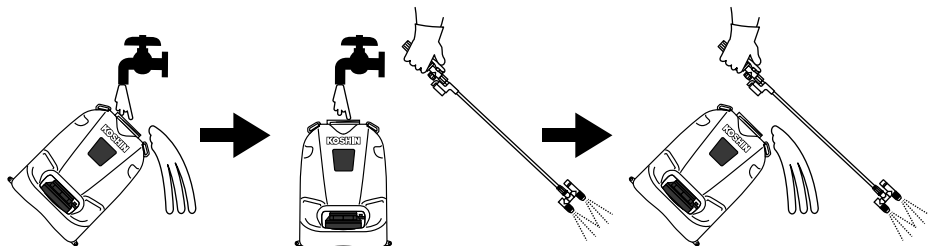


注意

噴口の調整はネジになっていますので、あまり緩めすぎると、液漏れまたは脱落しますので注意してください。逆に締めすぎるとネジが破損し液漏れの原因となります。

使用後の注意

1. 使用後は下記の方法で、ポンプ・ホース・ノズル内の薬剤を洗い流してください。



タンク内を清水でよく洗い、薬液を洗い流す。

2L以上の水をタンクに入れ、1分間噴霧する。

タンクの水を捨て、噴口から水が出なくなるまで噴霧する。

⚠ 注意

使用後は、タンク内に薬剤を入れたままにしないでください。薬剤がポンプやノズル内に残っていると薬剤が固まったり、またパッキン等が劣化したりなどして、ポンプ故障の原因となります。

2. 噴口～ホース内の残液及びタンク内の残液を完全に排出させてください。

⚠ 注意

加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴出する恐れがあります。接続部を外す前に周囲の状況を確認し、圧力を抜いてください。

⚠ 注意

冬季はポンプ内に残った水が凍結し、破損する恐れがあるので、洗浄後は水がなくなるまで、ハンドル操作し、完全に水を抜いてください。

3. 保管

本機洗浄後は乾燥した布で水気を拭き取って乾燥させ、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。直射日光は製品の劣化を早め、製品破損の原因となります。

⚠ 注意

タンク内に薬液を入れたまま保管しないでください。本機の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

保守・点検

① ブリーザーの洗浄

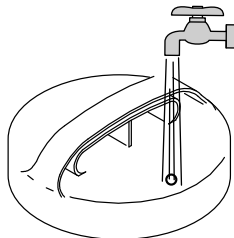
1. タンクキャップの空気穴に、泥や汚れが付着したら、水で洗い流してください。



注意

ブリーザー穴が詰まると散布時にタンクが“へこみ”破損する恐れがあります。

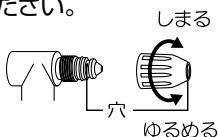
2. 製品を横に傾けたりすると、タンクキャップの空気穴から液が漏れることがあります。故障ではありません。



② 噴口の洗浄

噴口を図のように外し、水洗してください。

霧状・直射散布 【二頭口噴口】

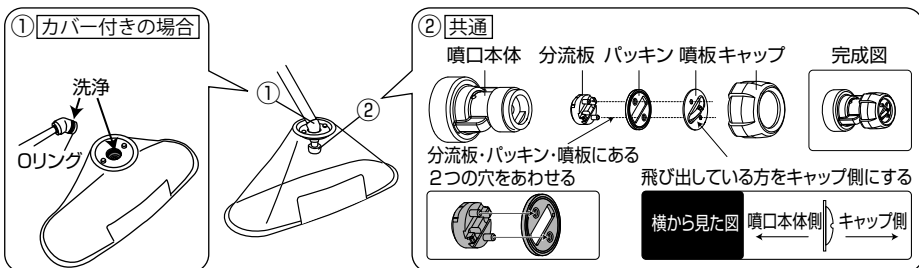


泡状散布 【(カバー付)泡状除草噴口ミ】

- ①(カバー付きの場合)、および②の2カ所を洗浄してください。

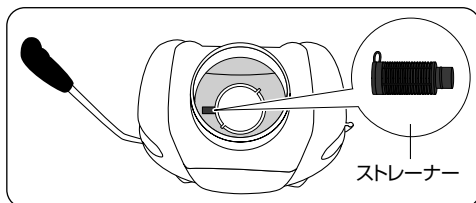
組み立てる時は、順番と向きに注意してください。

順番・向きが違とうまく噴霧できません。



③ 吸入ストレーナーの洗浄

- ①タンクキャップとタンクストレーナーを外す。
- ②底の方に見える吸入ストレーナーを緩めて取り外す。
- ③吸入ホースストレーナー部を清掃しゴミ等を取り除いてください。



お願い

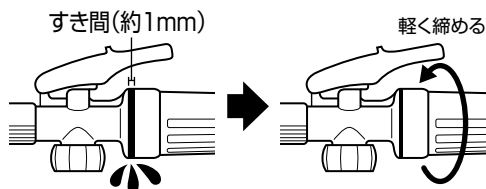
吸入ストレーナーがゴミ等でつまったりすると、噴霧不良等の不具合が発生しますので、時々清掃してください。

故障と処置

症状	考えられる原因	処置
噴霧が少ない 噴霧角度が狭い 噴霧しない	加圧不足	ハンドル操作を増やす
	噴口、パイプ、吸入・吐出ホース等のつまり	分解・清掃する
	タンクキャップブリーザーのつまり	清掃する(P.17参照)
	ポンプ部の破損または摩耗	修理(本誌裏表紙の「工進修理受付窓口」へ)
タンクがへこむ ポンプ下部より液漏れ	吸入ストレーナーのつまり	清掃する(P.17参照)
	タンクキャップブリーザーのつまり	清掃する(P.17参照)
噴口、ノズル本体、 ホースなどからの 液漏れ	ダイヤフラムの破損	修理(本誌裏表紙の「工進修理受付窓口」へ)
	締め付け不足	増し締める ノズル部⇒処置A
	パッキン・Oリングの破損、膨潤	パッキン・Oリングを点検・交換する 注油または交換する⇒処置B
液が止まらない	亀裂または破れ	ホースを点検・交換する
	ノズル本体クミのゴミつまり	清掃する
加圧されない	ノズル本体クミの破損	握りグリップ(ホース付)を点検・交換する
	ギヤ、ラックの磨耗・破損	修理(本誌裏表紙の「工進修理受付窓口」へ)
	ダイヤフラムの破損	修理(本誌裏表紙の「工進修理受付窓口」へ)
	Oリング・吸入・吐出弁の膨潤・破損	修理(本誌裏表紙の「工進修理受付窓口」へ)
	ポンプ内の空気が抜けていない	ノズルレバーを「連続」にして10回程度ハンドルを動かし、空気を抜く

処置A

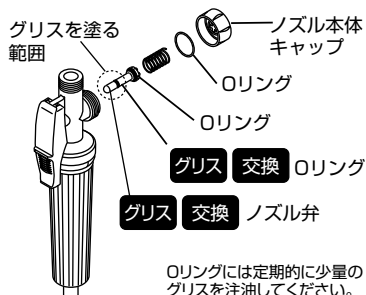
ノズル内部の経年変化



すき間(約1mm)
すき間から液漏れする場合、
漏れない程度に軽く締めてください。
締めすぎると割れる恐れがあります。

処置B

ノズル部Oリングの注油・交換



Oリングには定期的少量のグリスを注油してください。

お客様自身が点検・整備作業についてあまり熟知されていない場合は、
本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。



注意

取扱説明書記載以外の分解・修理は、
ご自分で絶対にしないでください。

パッキン類・Oリング類・吐出ホースは消耗品ですので、保証期間内でも
有償修理となります。また薬剤の種類により寿命が短くなる事があります。

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。
 パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。
 また、弊社公式Webサイトにてパーツ表、価格をご覧ください。

ご注文時のお願い

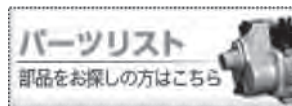
部品番号(7~9桁)または機種名・JAN、名称、必要な個数を
 正しくお伝えください。

パーツ表・単価

1) <https://www.koshin-ltd.co.jp>へ
 アクセス



2) トップページ「パーツリスト」バナーを
 クリック



KOSHIN

保証書

持込修理

レシートまたは
 販売証明書と共に
 保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。
 保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記
 載内容に基づき無料修理いたします。商品と本書をお持ちいただき下記の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼く
 ださい。
 保証期間経過後の修理などについても下記の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機 種	手動噴霧器 (背負式) RW-7 / 10 / 15	※お買い上げ日	年 月 日
保証 期間	お買い上げより1年間	※ 購 入 店	〒 住 所
お 客 様	※お名前		店 名
	※ご住所		電 話 ()
	〒 電 話 ()		

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

- 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
 - (イ) 使用上の誤り、改造、不当な修理、工進指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - (ハ) 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用電源（電圧、周波数）等による故障または損傷。
 - (ニ) 家庭用以外（業務用など）に使用された場合の故障または損傷。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、購入店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - (ト) 付属品、消耗品は有料修理となります。
 - (チ) 車両、船舶などに取付された場合に生ずる故障または損傷。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - この商品は持込修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。（一部商品を除く）
 - 本書は日本国内についてのみ有効です。
 - 本機が使用できなかったことによる不便さおよび損失など（電話代、レンタカー代、宿泊代、交通費、休業補償、営業損失など）は補償いたしかねます。

株式
 会社 **工進**

京都府長岡京市神足上八ノ坪 12

お問い合わせ

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
 - お買い上げ年月日、
 - 故障状況 など
- をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない商品もございます。



■ 製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。


■ 製品の修理に関するお問い合わせは……工進修理受付窓口へ


電話  **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
| ①お電話またはメールで連絡 | ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います) | ③センターで修理 | ④ご自宅までお届け | ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き |

■ 製品に関するお問い合わせは……お客様相談窓口へ

Q&A
Eメール お客様 サポートページ▶ 

電話  **0120-075-540** キョウトのコーシン
平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp

株式会社 **工進**

〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12
<https://www.koshin-ltd.co.jp>

